



集落支援員（伊達地域担当）
とみた ひかる
富田 光さん

何歳になっても新しいことにワクワクしよう！

地域ミニコミ紙の発行や自治組織の支援などに加え、今年度は新たに地域住民への DX 事業を行いました。スマホの相談会や高齢者対象の e スポーツ*教室などを実施しましたが、高齢者の ICT 活用には課題も多いです。地域住民に最も身近な交流施設である地区交流館を活用し、スマホも ICT も怖くないと思ってもらえる楽しい場所を作っていきたいです。

※ e スポーツ…電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称



私は「可能性を支援する人」です！

活動の中で地域の声を聞き、たくさんの前向きな力があることを改めて実感しました。きっかけさえあれば、新しいことを生み出せる活力があり、地域課題で悩んでいるということは「決して諦めていない」ということ。地域や人が持っているたくさんの可能性に対し、より一層の「普及」と「つなぎ」の役割に励み、活力ある地域づくりのための伴走者として活動します！



集落支援員（梁川地域担当）
やまだ あきひこ
山田 昭彦さん

若い時燃えない者は、将来も燃えることはない

町内会や自治組織、実行委員会に飛び込み、組織の抱える問題に真正面から向かい合ってきました。多くの組織で上がる意見として、「市職員にもっと地域に入ってきてほしい」というものがあります。役員の成り手不足や新型コロナウイルスの蔓延から、解散してしまう組織も出てきました。今こそ、市職員が立ち上がり、積極的に地域に関わることが大切であると感じます。



集落支援員（保原地域担当）
とうじょう かずひろ
東 城 一弘さん



未来に希望を持てる地域をつくる

中山間地域の地域づくり組織が相互連携し、活動を推進していく「農村 RMO*」活動に取り組んできましたが、3 年間という期間はあまりに短すぎると実感しています。そのため、今後は「未来へ向けた持続的成長の仕込み」として、地域の状況に合わせた助成制度の活用や、地域住民を巻き込み、住民主導の地域づくりができるよう、意識や行動の改革に努めていきたいと思っています。



※ RMO（アールエムオー）…Region（地域）Management（運営）Organization（組織）の略



集落支援員（月舘地域担当）
さとう かずこ
佐藤 和子さん

できるだけ長く、自分らしく暮らし続けるために

月舘町の高齢化率は 50%を超えました。人口の半分以上が高齢者なんです。また、65 歳以上の 5 人にひとりが認知症になると言われています。認知症になったら人生が終わりなんてことはありません。たとえ認知症になっても、住み慣れた地域で自分らしく生きていけるように、これからも、地域のサロン活動や高齢者の交流の場を応援する活動をしていきたいと思っています。



地域おこし活動をマルっとご紹介！

☎ 協働まちづくり課地域振興係 ☎ 575-2115

1 月 29 日☎、地域の抱えるさまざまな問題に向き合い、問題解決や地域おこしに取り組む「地域おこし支援員」「地域プロジェクトマネージャー」「集落支援員」の皆さんの活動報告会を開催しました。

地域に寄り添う、頼れる 8 人の味方。そんな皆さんの普段の活動や今後の目標を聞いてみましょう！



市公式 YouTube
チャンネル

活動報告会の様子はこちら▶



林業で地域を変えられる存在になる！

林業はきついイメージで担い手が減っており、さらに高齢化で自分の山の手入れが出来なくなっているのが現状です。他にも林業にはさまざまな課題がありますが、それらの解決策の 1 つが「林業の 6 次化」であると考えています。その実現のため、今後はより実践的な流れを確立していくとともに、伊達市の自然を守るご当地ヒーロー「樹界機士パインプロスパー」による林業啓発を行っていくことで、林業に興味を持ってくれる人がひとりでも増えるように活動していきます。



地域おこし支援員
ふくい しゅんた
福井 竣太さん



一つ一つ、真摯に向き合って

多世代交流の場として、伊達市でしか体験できないものづくりや、絵本や書籍を絡めた活動を行ってきました。私にとってこの 1 年間はチャレンジの連続で、施設の運営管理や既存の取り組みに携わりながら、個人の新しい活動を始めることは容易ではありませんでした。それでも目標の実現に向けて一生懸命に取り組んでいると、活動について地域のみなさまよりうれしいお言葉をかけていただくことがあり、少しばかりですがお役に立てたような実感があります。



地域おこし支援員
さとう まつみ
佐藤 末実さん

伊達市を「自転車乗りの集まる場所」へ

「サイクリストにやさしい宿」を実現するために、おての里きてみ～なを拠点に活動してきました。『ブルベ』と呼ばれるノーサポート・自己責任の過酷な長距離サイクリングイベントを誘致することにより、多くの自転車愛好家たちに訪れてもらえました。まだまだ、自転車の聖地までは遠いですが、もう少しで「東北ブルベの拠点」として認識してもらえそうです。市内でサイクリストを見かけることがあったら、ぜひ手を振ってあげてください。



地域プロジェクトマネージャー
こが もとお
古賀 基生さん

